

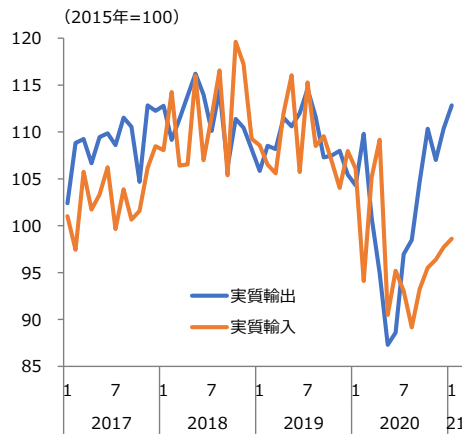
日本

貿易統計 (2021年1月)

感染拡大下でも輸出は堅調、先行きはアジア・米国向け中心に回復

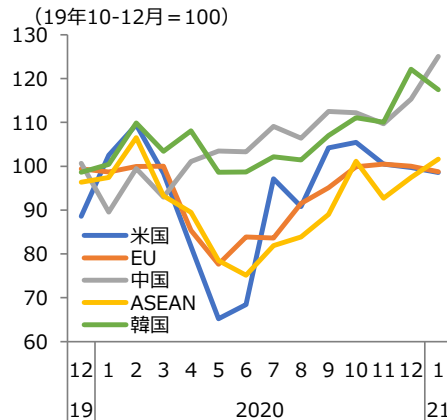
政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 実質輸出入



注：当社による季節調整値。20年1月以前のEUの値は、EUから英国を除いた値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

2 実質輸出：国別

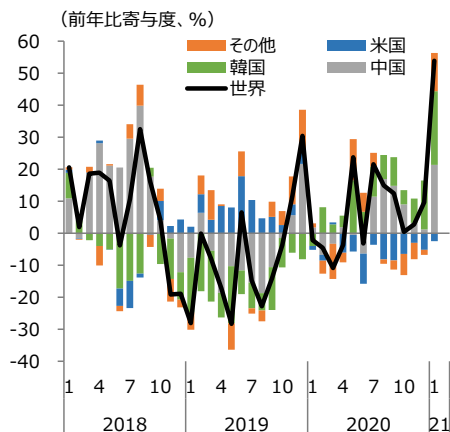


評価ポイント

今回の結果

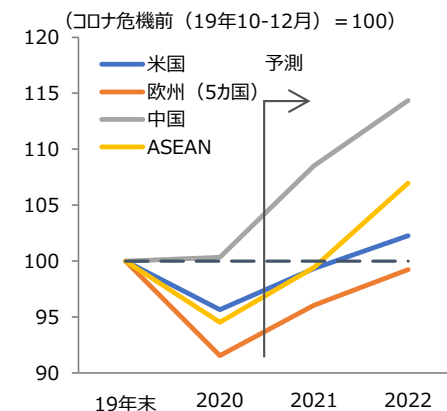
- 21年1月の実質輸出（当社による季節調整値）は、前月比+2.2%、実質輸入は、同+0.9%（図表1）。貿易収支（季節調整値）は、+3,928億円。輸出は国内外で感染が拡大するなかでも、増加傾向にある。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、感染が拡大する欧米向けは微減も、アジア、特に中国・ASEAN向けが輸出を牽引（図表2）。各国・地域ともに、コロナ危機前（19年10-12月）と同程度の水準まで回復するなか、経済回復の早い中国向けは春節前の特殊要因を考慮する必要があるが、コロナ危機前を2割以上上回っている。
- 品目別（当社による季節調整値）では、米国向けを中心に輸送用機器が減少（前月比▲3.9%）。一方、世界的な半導体需給の逼迫を背景に、半導体等製造装置の輸出は前年比+53.8%と大幅に増加した（図表3）。

3 半導体等製造装置



出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

4 各国GDPの見通し (MRI予測)



注：予測値は、21年中は感染リスクの高い地域や活動を中心に一定の経済活動抑制を継続しつつも、21年末から22年前半には、先進国中心に集団免疫を獲得する国が始め、22年中は段階的に経済活動が正常化に向かう経済を前提としたシナリオ。
出所：三菱総合研究所

基調判断と今後の流れ

- 輸出は、国内外で感染が拡大するなかでも、増加している。
- 先行きは、回復ペースは鈍化も、海外経済の回復にあわせ緩やかな回復継続を予想する。当社予測では、世界のGDPがコロナ危機前の水準を回復するのは21年半ばとみている。アジア向けは、コロナ危機前の水準を回復した中国向けを中心に堅調に推移するとみる。米国向けも、追加経済対策（約1.9兆ドル）が成立すれば、内需を下支えし、輸出も持ち直すだろう。
- 一方、防疫措置強化が続く欧州向けは失速が予想され、輸出回復の重石になる（図表4）。世界的な半導体需給の逼迫は半導体関連の輸出には追い風となるが、自動車の生産等供給面の制約が輸出回復の重石となるだろう。
- 下振れリスクは、変異株の流行による感染者の急増やワクチン普及の遅れだ。リスクが顕在化すれば、経済活動の抑制を長期化せざるを得ず、海外経済の回復ペースが鈍化、輸出が停滞する可能性がある。